

令和6年度予算編成方針

令和5年10月3日

総務部長 渋田 倫男

1 令和6年度予算編成に向けた基本的な考え方

先に示された市長メッセージ『令和6年度当初予算編成のスタートにあたって』を踏まえ、第5次古賀市総合計画基本構想の実現を図ります。

令和6年度予算編成では、コロナ禍によるさまざまな変化をとらえた上で、これまでの枠組みや成功体験にとらわれることなく、前提条件や思い込みをなくした「ゼロベース思考」を意識します。また、信頼できるデータを最大限生かしつつDX化や公民連携を推進し、あわせてクロスオーバーによる共創のまちづくりを念頭に予算編成を進めるものとします。

2 国の動向

政府は、「経済財政運営と改革の基本方針 2023」において、加速する新しい資本主義に向け、未来への投資の拡大と構造的賃上げの実現を掲げ、高い水準の賃上げや企業部門における高い投資意欲など、直近の前向きな動きをさらに力強く拡大すべく、新しい資本主義の実現に向けた取組を加速させ、新時代にふさわしい経済社会の創造をめざすとしています。

また、経済は、コロナ禍から経済社会活動の正常化が進み、緩やかに回復している状況で、令和6年度のGDP成長率は実質で1.2%程度、名目で2.5%程度と民間需要主導の緩やかな成長が見込まれています。

国の予算編成では、構造的賃上げの実現、官民連携による投資の拡大、少子化対策・子ども政策の抜本強化など重要政策課題に必要な予算措置を講ずることでメリハリの利いた予算編成とすることとされています。

3 令和4年度決算状況と今後の見通し

令和4年度の普通会計決算は、実質収支については約14億2300万円の黒字となりましたが、実質単年度収支においては約7億6700万円の赤字となりました。

また、財政運営の弾力性をあらかず経常収支比率は、4ポイント悪化し88.3%、財政力を示す財政力指数は横ばいの0.683となりました。

令和6年度以降は、市税収入において土地の価格上昇や開発に伴う固定資産税の増加が見込まれますが、歳出では社会保障費をはじめとする義務的経費の増加や公共施設の長寿命化などの維持管理コストの増加が引き続き見込まれるため、財政状況は厳しくなる見通しです。

今後の重要施策の推進に取り組むためには財源確保が必要であり、さらなる事務事業の見直し等による歳出経費を削減し、限られた財源を効率的に配分しながら、行政サービスの質を維持しつつ健全財政の推進を図っていく必要があります。

なお、公共施設等の維持・更新については、将来負担を考慮した上で、計画性を持って適切に行い、そのコストについては十分精査を行うようお願いいたします。

4 令和6年度予算編成のポイント

令和6年度の予算編成については、枠配分予算とします。以下の点に留意し取り組んでください。

- ① 全ての事業について、本来の目的と市民等ニーズが合致しているか検証し、必要な見直しを行うこと
- ② 事業効果を検証し、効果が不十分な事業は見直し、廃止し、効果ある事業を創出すること
- ③ 新たな財源がないか、広い視野をもって情報収集に努めること
- ④ 新規事業は、市民等にとって真に必要なか、対象者ニーズを捉えているかを十分検討し、財源の確保にも努めること
- ⑤ ランニングコストも意識し、トータルコストで精査すること
- ⑥ 質の高いサービスを提供するため、民間の持つ豊富なノウハウを積極的に活用すること
- ⑦ 市民要望並びに議会及び監査委員からの指摘事項について精査すること

5 その他

部内統括及び調整委員を設定しています。予算編成にあたり、部内調整及び部をまたいだ調整については部長を補佐していただきますようお願いいたします。